

昭和37年6月7日第三種郵便物認可 平成22年8月1日発行(毎月1回1日発行) ISSN 1882-7276

地盤工学会誌

Vol.58 No.8 Ser.No.631

特集

地盤調査技術の現状と課題

8

The Japanese
Geotechnical
Society
2010



社団法人
地盤工学会

<http://www.jiban.or.jp/>

	地盤工学会研究奨励賞を受賞して	71
	●小林 泰三	
	地盤工学会研究奨励賞を受賞して	72
	●DUTTINE ANTOINE	
学会の動き (ISO だより)	第24回 ISO/TC190 (地盤環境) 総会報告 (その2)	73
	●地盤工学会 ISO 国内委員会	
(国際活動から)	第17回東南アジア地盤工学会議における ATC3 と ATC10の活動報告	74
	●豊田 浩史	
技術手帳	高支持力杭	76
	●桑原 文夫	
講 座	高松塚古墳壁画の保存対策	
	6. 高松塚古墳墳丘の地盤特性と石室解体に対する安定性評価	78
	●三村 衛/吉村 貢	
	プログラミングで学ぶ有限要素法	
	5. 弾塑性モデルを用いた変形解析	86
	●渦岡 良介/山川 優樹/宮田 喜壽	
	6. 弾塑性モデルを用いた圧密解析 (その1)	93
	●渦岡 良介/宮田 喜壽/山川 優樹	
地盤工学 ジャーナル の 紹 介	「地盤工学ジャーナル Vol. 5, No. 2 (2010年6月発行) 掲載論文の概要	99
	●地盤工学ジャーナル編集委員会	
	会告：地盤工学会第52回通常総会報告	103
	第3期代議員の選任	117
	近着の市販雑誌から，新入会員	118
	編集後記	119

第24回 ISO/TC190 (地盤環境) 総会報告 (その2)

地盤工学会 ISO 国内委員会

1. はじめに

2009年11月2日～6日にソウルにて開催された第24回 ISO/TC190総会について、前報¹⁾に引き続き、SC3 (化学試験法)、SC4 (生物学的試験法) および SC7 (土壌およびサイト評価) での審議状況を報告する。

2. 各分科会での審議内容

(1) SC3 (化学試験法)

化学的手法については、WG1 (微量元素)、WG4 (シアン)、WG6 (有機汚染)、WG10 (予備試験法)、WG11 (爆発物) および WG12 (碎石の安定性) の八つの会議が開催された。

WG4 (シアン) では、シアンについて total cyanide, free cyanide, complex cyanide 等、様々な用語が各種の規定で引用されている現状に対し、各種シアンの化学種を定義する付録の作成を緊急課題とすることが決議された。

WG6 (有機汚染) では、SC7WG4 の ISO/WD 11204 (鉱油類による汚染土からの影響のアセスメント) の規格案作成のために必要な炭化水素の分析法の開発について、GC による揮発性の脂肪族と芳香族の分析および GC-FID による半揮発性の脂肪族と芳香族の分析の二つが NWI として提案された。

WG10 (予備試験法) では、ISO/CD 12404 (予備的方法の選択と適用のガイダンス) および ISO/WD 13196 (蛍光 X 線分析装置を用いた選択された元素についての予備試験法) の規格化について議論された。

WG12 (碎石の安定性) では、ISO/CD 10930 (クラストおよび水食に対する感度を評価するための土壌団粒の安定性の測定) について議論された。

SC3 総会では、WG10の今後のあり方について、組織の改正を含めた提案が行われた。この議題は、TC190 総会でも審議にかけられ、予備試験関係の案件の拡充と要員の確保が図られた時点で具体化を検討することとなった。

(2) SC4 (生物学的試験法)

生物学的試験法については、WG2 (土壌動物)、WG3 (土壌植物) および WG4 (微生物) の会議が開催された。

WG3 (土壌植物) では、環境バイオアベイラビリティ

ィーを評価するための新しい試験である Rhizotest について、金属および金属様物質の植物へのバイオアベイラビリティの測定手法の開発の重要性が認識された。

WG4 (微生物) では、SC2 と同様に、包括的規格の下に一般規格、専用規格とぶら下がる構造の新規格への移行を進めることが提案された。

SC4 総会では、今後、生物学的試験法にもリスクアセスメントの考え方を取り入れた規格を作成していくべき必要性を多くの国が必要性を認識した。

(3) SC7 (土壌およびサイト評価)

土壌およびサイト評価については、WG4 (人への曝露)、WG6 (溶出試験)、WG8 (バイオアベイラビリティ) および WG9 (動物死体の埋却) の会議が開催された。

WG4 (人への曝露) では、ISO/CD 11204 (鉱油による汚染土からの影響のアセスメント) における論点として、世界保健機関 (WHO) の TPH 画分方法と TPHCWG の TPH 画分方法のどちらを基本とすべきか、物質の移動特性の違いと石油製品としての違いのどちらに基づいて TPH を画分すべきか等について意見交換を行った。

WG6 (溶出試験) では、地球化学モデル用の土壌パラメーターを得るための試験法 ISO/CD 12782-1～5 が賛成多数で通過したことが確認された。

WG8 (バイオアベイラビリティ) では、金属のバイオアベイラビリティのアセスメントに関する NWI の内容が議論された。

3. おわりに

TC190 全体の今後のあり方について議論が続く中で、包括的規格 (アンブレラ規格)、一般規格および専用規格からなる新しい構造での ISO 規格化が始まりつつある。EU 圏主導でこれらが急ピッチで進むことが予想されるため、日本としての主張を ISO 規格の中にどう組み込むかを考えておく必要があると思われる。

参 考 文 献

- 1) ISO 国内委員会: ISO/TC190 (地盤環境) 総会報告 (その1), 地盤工学会誌, Vol. 58, No. 7, p. 39, 2010. (文責: 中島 誠 国際環境ソリューションズ(株))